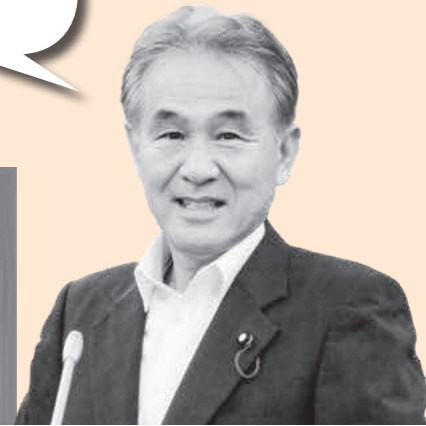


新・旧の総合防災マップの違いは



月田 均



町長

洪水浸水想定情報を拡充する



昭和 22 年カスリーン台風後の航空写真

質問 町は、新たに総合防災マップの作成に取り組んでいるが、従来の総合防災マップとの違いは何か。

答弁 町長 まず、新たに作成する総合防災マップでは、利根川と烏川に加え、滝川と藤川の洪水浸水想定情報も反映する。さらに、外国人にも分かりやすいように、4か国語の概要版も作成する。

質問 4年前の一般質問で、「浸水想定図の浸水深の色が赤系統で分かりにくい」

と指摘したが、改善されるのか。
答弁 環境安全課長 委託業者とも協議し、浸水の深さが分かりやすい色分けにしたいと考えている。

質問 浸水想定図の浸水深は5段階表示だが、10m以上の浸水区域は玉村町には存在しない。4段階表示で良いのでは。また、家屋倒壊等氾濫想定区域の表示も改善の必要があるのではないか。

答弁 町長 環境安全課長 浸水深の色と併せ、表示方法についても検討したい。

リフォーム支援事業による下水道接続工事は

質問 緊急経済対策住宅等リフォーム支援事業は、下水道接続工事も対象となり、接続率の向上が期待される。この支援事業を活用した下水道接続工事の現状は。

答弁 町長 8月19日時点で、下水道接続工事に関する

る申請は、全申請件数の約14%に当たる43件であった。
また、未接続世帯に対し、本支援事業を活用した早期接続の依頼通知を順次発送しているため、今後、申請件数が増えることが見込まれる。

特殊詐欺への対応は

質問 このところ特殊詐欺のニュースを耳にする。町の対応は。

答弁 町長 特殊詐欺を未然に防ぐことは、住民の財産を守る上で大変重要なことである。群馬県警からの情報について、メルタまを通じて発信するとともに、8月には民生委員・児童委員に情報提供を行い、独り暮らし高齢者等への周知をお願いした。さらに、10月の広報でも特殊詐欺について取り上げ、注意喚起を行う。

こんな質問もしています

・高耐久性アスファルトの採用を

総合戦略による人口減少対策は



松本 幸喜



町長

様々な取組を継続して行っている

質問 玉村町の人口減少は、依然として続いているが、「玉村町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」に基づく人口減少に対する取組は。

答弁 町長 対策の一つとして、長期的に人口を一定に保ち、合計特殊出生率を高めていく必要があるため、子育て世帯への経済的支援、子育てしやすい環境づくりなどを精力的に進めている。また、継続的な社会増を促すため、文化センター周辺に住宅団地を分譲するなど、環境整備を整え、ファミリー層の転入を促している。

さらに、雇用元となる企業の誘致を行い、雇用の場を創出することで若者の転出を抑制するとともに、進学等で町外へ転出した場合でも、就業に伴って玉村町へ戻ってきてもらえるよう努めている。

質問 それらの取組について、その進捗を評価しているか。



開発が進む高崎玉村スマートIC北地区工業団地

答弁 町長 評価については、数年で効果が現れるか分からないが、これらの取組の効果が最大限に生かされるよう、努力を続けることが重要だと捉えている。

質問 「総合戦略」に基づく人口減少対策は。

答弁 町長 主な施策として、「高崎玉村スマートIC北地区工業団地への企業誘致」「空き家の有効活用」「子育て支援体制の充実」などがあり、

これらの取組を継続して行っているところである。

コロナ禍における不登校児童・生徒の対応は

質問 不登校児童・生徒の発生率とその対応は。

答弁 教育長 不登校の児童・生徒数は、小学校では14名、全児童数の0・8%、中学校では47名、全生徒数の5・3%となっている。

現在、文部科学省から、不登校を問題行動として捉えず、社会的に自立することを最終目的とすることが示されている。担任や学年職員をはじめ、教育相談担当等を中心に、心理や福祉の専門家も積極的に活用し、相談体制を構築して本人や保護者の気持ちに寄り添った支援を行っている。

こんな質問もしています

・公園等の公共施設の管理・運営について